

日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた新たな将来ビジョン(答申) 概要

現行の将来ビジョンの振り返り

2015年11月に将来ビジョンを策定し、万博記念公園の活性化に向けた取組みを推進。短期（～2017）、中期（～2020）の取組みはほぼ実施。

自然文化園の来園者数も継承前（2013年度末）の約183万人から、5年間で約239万人まで増加。**50周年を終え、次の50年を見据え長期（～2028）の取組みの検討が必要。**

【主な取組み】

- ・万博の森づくりにおける生物多様性向上の取組み
- ・指定管理者制度の導入(2018年から管理)
- ・太陽の塔の内部再生事業(2018年内部公開)
- ・万博記念公園駅前周辺地区活性化事業(2019年より公募)
- ・1970年万博50周年事業(2020年度)

状況の変化と求められる対応

現行ビジョン策定後、万博記念公園を取り巻く状況は大きく変化しており、公園のポテンシャルを最大限に発揮した対応が求められている
(主な状況の変化と対応)

- インバウンド需要の増大と新型コロナウイルス感染症の感染拡大**
訪日外国人客数は、**2013年から2019年まで毎年過去最高を更新**。現在は新型コロナウイルス感染症の影響で来園者数が大きく減少しているが、今後のインバウンド需要拡大を見据え、**外国人観光客を呼び込む取組みが必要**
- 2025年大阪・関西万博**（計画期間：～2025）
大阪・関西万博の開催を契機に、改めて大阪万博を記念する公園のあり方を見つめなおし、その価値や魅力の明確化、歴史の継承・発展を通して、万博記念公園のさらなる活性化を図るとともに、大阪・関西万博の成功に向けた連携・協力を進めていくことが必要
- SDGs（持続可能な開発目標）**（計画期間：～2030）
持続可能でよりよい世界をめざす国際目標の達成に向け、多様な主体による行動や協働が求められる中、万博記念公園としても**自主的な取組みを実施することが必要**
- DX（デジタルトランスフォーメーション※）の推進**
あらゆる産業において競争力維持・強化のためDXが推進される中、新型コロナウイルス感染症の影響によりさらにDXが進展。**万博記念公園においても、利便性・快適性・魅力等を向上するため、DXを推進することが必要**（※デジタル技術によって社会、生活、ビジネスの形やスタイルを変えること）

新たな将来ビジョンに盛り込む視点

- ①**レガシーの再生・継承** 太陽の塔を代表とする**約19万点に及ぶ大阪万博のレガシーを確実に継承する**とともに、世界中の視線が再び大阪に集まる2025年大阪・関西万博のインパクトを活かし、大阪万博の**新たな魅力を発信**していく。また、高度に発展する科学技術と人間性の調和をめざした「**人類の進歩と調和**」など**大阪万博の理念もレガシーとして位置付け、今後の取組みにつなげていく。**
- ②**多様性への対応** 年齢、性別、障がいの有無、国籍等、多様な人々が利用している万博記念公園においては、大阪万博の基本理念、テーマに基づき、**多様な価値観を理解し認め合い、多様なニーズに対応していく。**
- ③**持続可能な未来社会への貢献** 生物多様性の向上を進める「万博の森づくり」の意義を共有し、より多くの人に参加してもらう等、**持続可能な未来社会に貢献する**。また、**未来の主役である子ども達にもフォーカスしていく。**
- ④**文化・スポーツを拠点とする新しいライフスタイル** 「万博記念公園駅前周辺地区活性化事業」との連携等により**文化・スポーツの拠点形成を図り、国内外から多くの人々を呼び込み、新しいライフスタイルを体験できる場としていく。**

現行の将来ビジョンと新たな将来ビジョン(答申)の比較

項目	現行の将来ビジョン	新たな将来ビジョン(答申)
基本テーマ	人類の進歩と調和	
基本理念	緑に包まれた文化公園	(継承)
めざすべき公園像	緑と文化・スポーツを通じて人類の創造力の源泉である生命力と感性が磨かれる公園	
存在意義	—	(新たに設定) 大阪万博の精神と文化遺産を継承するとともにその再生を図り、多様な人々や自然とつながる持続可能な未来に向かう交流の場を生み出す
目標	①人と自然の調和 ②世界への文化と美の発信 ③人々の交流と創造 ④持続的な魅力の創造	①多様な人々が交流交歓を通じ、喜びや希望を感じられる場の実現 ②豊かな未来を考え、行動を促す場の実現 ③世界に誇る文化・スポーツ拠点の形成
基本方針	①シンボルゾーンを中心に文化と美を体験創造し発信する公園 ②地球環境保全・再生に貢献する公園 ③緑の中で人々が憩い活動し自然の美に感動する公園 ④国内外から多くの人々が訪れる公園 ⑤健康づくりや多様なライフスタイルを実践できる公園 ⑥全ての人々が安心して快適に利用できる公園 ⑦持続可能な運営・財務体制を有する公園	①将来にわたり、すべての人が安心して快適に利用できる、多様性と調和に満ちた公園 ②レガシーの活用と、万博の森づくりの文化活動等を通じ、未来を創造する力を育む公園 ③文化・スポーツの拠点として、国内外から観光客を含む多くの人々を呼び込み、新しいライフスタイルを体験できる公園
計画期間	2015年度～2028年度	2022年度～2040年度 ※50年先を見据えつつ、活性化事業の最終まちびらきやリニア中央新幹線全線開業の2037年（予定）を視野に入れ設定
数値目標	2020年度に300万人の来園者数（自然文化園）	来園者数に加え、様々な視点から達成状況を評価するため、複数のKPIを設定
具体的な取組み	(ビジョン内に記載)	公園を取り巻く環境の変化に柔軟に対応しながら取組みを進めていくため、5年程度で更新する「 アクションプラン 」を新ビジョンの下に策定。策定にあたり指定管理者と協議。活性化事業者とも連携